

社会福祉法人 布引会 玉園ハイム 令和7年 事業計画

令和6年度では、面会方法を大きく見直しご入居者・ご家族が一緒に過ごせる機会を設けたことで毎日2〜3組以上のご面会をいただいております。病院や介護老人保健施設では面会ができなかったが、施設に入居することで面会できてありがたいとの声を聞かせていただく半面、入居により話し相手がおらず淋しく感じていると話を聞くこともあります。今後、施設としてご入居者ご利用者が楽しんでいただける時間や家族とも触れ合っていただく時間を多く取り、安心して任せていただけるような取り組みが必要だと考えます。運営においては入居の申込者は減少、重症化により入居後短期間で入院する傾向が見られます。短期入所生活介護は、継続しご利用いただく方もありますが、単発でのご利用者も多く平均利用者数は減少している状況です。介護職員を始め各職員利用者の生活を支えられるよう取り組んでおりますが、今後技能の向上に向けた取組を強化しご入居者ご利用者が心豊かに生活していただき入院者数の減少や新規申込者増員できる運営に取り組めます。

＜特別養護老人ホーム玉園ハイム＞・・・入居者数月48名以上 「入居者の疾病など理解し支援できる技能取得の推進」

要介護4.5の方や医療依存度の高い方により、入居後短期間で体調を崩し入院するご入居者が目立っています。特別養護老人ホームでの入居は原則要介護3以上であることから、疾病や身体面で重度になってからのご入居であることと理解し支援の検討が必要になります。今後、施設で高齢者に見られる疾病の理解と予防の学びの場を企画し他職種が連携してご入居者の疾病悪化予防の検討や看取り介護を含め専門的に行えるよう計画の立案を行います。

「新人育成と育成する職員を育てるシステム構築のための取組」

施設では、新人教育並びに新人を育てる職員の教育に課題が見られます。当施設だけではなく、人員の不足が喫緊の課題であります。人手がないことで、指導ができないことや、指導者による指導のばらつきもあり、指導者を育てることが急務です。指導方法が異なることは、新人職員にとっても戸惑いとなるため、介護の基礎を施設内で統一し、介護の基礎を伝える。育てる側が統一した育成の流れを作成し評価し客観的評価ができるプログラムが必要です。育成指導研修等への参加を推進し、施設全体で育成プログラムを作成し運用できればと考えます。又、介護業務においては、身体への直接的な介護、居室清掃など間接的な介護に分けることができます。今後、間接的な介護に従事できる職員等も募集を視野に入れ、介護職員がご入居者への介護に専念できるような取り組みが必要です。

「施設職員間の連携の強化」

ユニット型個室になり、職員・ご入居者も分散し、各ユニット職員が他ユニット入居者の名前・状態等が把握できていない状況です。又、ユニット職員人数にも各ユニットで人員のばらつきがあり、職員異動により各ユニット平均した人員配置を行い、人的不足を可視化し新規職員採用を行います。施設が実施する行事等も企画し各ユニット職員のコミュニケーション機会を持ち連携できる取り組みを推進します。

<ショートステイセンター玉園ハイム>・・・利用平均7名以上

「新規利用者の積極的受入れ」

短期入所生活介護では要支援1から要介護5のご利用者を受け入れています。ご利用者の心身機能に応じた細かな支援が求められています。その為に、当サービス利用を満足されるご利用者は継続的なご利用に結びつくこともあり、引いてはご自宅での介護負担が重く

なることで施設申込も行っていただけ、営業的事業としての役割があります。その為、居宅介護支援事業所とのさらなる関係を深め、積極的な利用者受け入れ平均利用者数を増やせるよう対策を行います。

「短期入所生活介護従事職員の増員」

施設の営業的側面のある事業であることから、本来職員数をより充足させる必要があると考えます。しかし、従事者の応募数が少ない中で尚且つ短期入所従事希望者も少なく、職員数を増やすことができていない状況を鑑み、施設全体の職員異動による増員と積極的な職員確保など対策を行います。

「短期入所生活介護サービスの充実」

短期入所生活介護は支援 1 からの利用いただけることから、ご利用者の心身機能に応じた特化した対応が必要となります。今後、特別養護老人ホーム同様に内外研修の積極的参加やプログラムの充実を図れる研修参加など、ご利用者ご家族の満足度が上げられるような取り組みを行います。

＜ケアプランセンター玉園ハイム＞ ・ ・ ・ ・ 月 50 名以上

「ケアマネージャーの技能向上に向けた取組」

現在、管理者及び非常勤介護支援専門員の 2 名体制で運営し、積極的な受け入れをしております。令和 6 年度法定研修より、要介護高齢者本人と家族の生活の継続を支えるための「適切なケアマネジメント手法」が導入され、抜けのないケアプランの作成が求められています。今後、研修会等計画的に参加し、積極的な技能向上への取り組みを行います。

「新規利用者の積極的受入れと安定した利用者数の確保」

地域包括支援センターと連携を図り新規利用者を積極的に受けている状況を継続します。看取り期の申込者や長期入院等により、利用

者の増減はありますが 安定した利用者の獲得を継続します。

「災害等における利用者支援の充実」

災害等の有事の際に、ご利用者が取り残されることがないようにケアプランに連動したご利用者の生活を守る取組が必要です。その為には、ご利用者・ご家族・サービス事業所・行政だけではなく、地域の皆様とも積極的に関係を築き、協働した取り組みを推進します。又、災害対策等の研修にも参加し、研鑽を図ります。

＜特別養護老人ホーム＞＜ショートステイセンター＞＜ケアプランセンター＞ 各事業共通した取り組み

「法人の運営する事業の認知度向上の取組」

当法人の運営する全ての事業での職員、利用者増員を図るには、施設が実施するイベントなど就職希望者へアプローチ、ご入居の検討や入居したいと思える機会を設けるため積極的な SNS の活用や福祉の仕事が伝えられる機会への積極的参加を推進します。又、日頃より地域との結びつきを深く持ちふれあいサロンなど地域活動への参加や玉緒地区福祉住民福祉推進会議への参加により法人の運営する「玉園ハイム」を意識してもらえる機会を確保します。特に、玉緒幼稚園様・尻無町祇園会様とのつながりがコロナ禍以降途絶えており、新たな関係の枠組みを、各部署主任クラスとも協議し実施に向け取り組んでまいります。